カリキュラム

1. 研修歯科医師の配置など

（1）　原則として指導歯科医の下、診療日は主に初診患者の診断、治療方針の立て方について学習し、予約患者の診療介助、外来手術や手術室での手術の助手を務める。また入院患者を指導歯科医の助手として受け持ち、入院患者の診療や管理を学習する。

（2）　研修期間中にオリエンテーションを含めて別に定める教育セミナーを受講する。教育セミナーは適宜開催とし、講師は指導歯科医を含めて院内の適任者とする。研修の習得状況により、指導歯科医の指導下に外来患者の歯科診療を行う。研修後半（概ね 10 月以降）では配当された患者を担当する。手術に関する知識・手技の向上度を考慮のうえ、指導歯科医の指導の下に（外来、手術室を問わず）執刀もありえる。

（3）　協力型（Ⅱ）臨床研修施設である医仁会武田総合病院で訪問診療について研修する。

（4）　院内の講習会、講演会には必ず参加する。毎月のカンファレンスでは指導医から与えられたテーマに沿って発表を行う。余力があれば各種学会活動を行う。

2. 研修内容

（1）　歯科（保存修復、歯内療法、歯周疾患補綴治療等）

特に有病者の歯科治療

（2）　口腔外科

顎口腔領域の嚢胞・腫瘍・炎症性疾患、外傷、口腔粘膜疾患

（3）　その他

- 全身管理の研修（場合によって麻酔医の指導を含む）
- 地域医療の研修（地域医療連携業務、地域包括ケアシステムの学習を含む）
- 口腔ケアの研修（周術期口腔機能管理、病棟往診を含む）
- 院内多職種の業務の理解、チーム医療についての研修

3. 到達目標

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1.　社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提

供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した

臨床決断を行う。

③　保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

④　高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4.　診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

①　患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②　診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。

③　患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。

④　診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5.　コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①　適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②　患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③　患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6.　チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①　歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。

②　多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

③　医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7.　情報・科学技術を活かす能力

情報倫理（AI 倫理を含む）および個人情報保護を遵守し、医療・保健・介護分野における ICT・IoT・AI 等の技術を理解し適切に活用する。

①　情報倫理(AI 倫理を含む)及び個人情報を含むデータ保護に関する原則を理解し、実践する。

②　健康・医療・介護に関わる情報倫理及びデータ保護に関する原則を理解し、実践する。

③　医療・保健・介護分野での Internet of Things (IoT)技術や AI 等のデータの適切な活用について理解する。

8.　社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

①　健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
②　地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
③　予防医療・保健・健康増進に努める。
④　地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
⑤　災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

9.　科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①　医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
②　科学的研究方法を理解し、活用する。
③　臨床研究や治験の意義を理解する。

10.　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

①　急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
②　同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
③　国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C.　基本的診療業務

1.　基本的診療能力等

（１）　基本的診察・検査・診断・診療計画

①　患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
②　全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
③　診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。

④　病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
⑤　診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
⑥　必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

研修内容：初診患者の問診から診察、検査、診断、患者説明、治療計画の作成
必要症例数：上記①～⑥を一連として５例以上

（２）　基本的臨床技能等

①　歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する
研修内容：口腔衛生指導および基本的予防処置
必要症例数：３例以上

②　一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

a.　歯の硬組織疾患
研修内容：レジン修復、インレー修復
必要症例数：レジン修復は１歯を１症例として２０例以上、インレー修復は１歯を１症例として５例以上

b.　歯髄疾患
研修内容：根管治療、根管貼薬、根管充填
必要症例数：１回の治療を１症例として５例以上

c.　歯周病
研修内容：歯周基本治療、口腔衛生指導
必要症例数：初期治療中１回の治療を１症例として３例以上

d.　口腔外科疾患
研修内容：抜歯、粘膜疾患の診療補助、手術介助、顎関節疾患の診療補助
必要症例数：抜歯は１歯を１症例として３０例以上、粘膜疾患５例以上（見学・診療補助を含む）、手術室手術の介助５例以上、顎関節疾患３例以上（見学・診療補助を含む）

e.　歯質と歯の欠損
研修内容：歯冠修復、有床義歯治療、ブリッジ治療
必要症例数：歯冠修復５例以上、有床義歯は１床を１症例として３例以上（ブリッジでも可）

f.　口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
研修内容：口腔ケアチームでの病棟往診口腔ケアに参加する
必要症例数：３例以上

③　基本的な応急処置を実践する。
研修内容：疼痛、出血、感染、外傷等に対する基本的な歯科応急処置
必要症例数：３例以上

④　歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
研修内容：血圧、動脈血酸素飽和度、脈拍等のモニタリングを行い、全身状態を評価するとともに、必要に応じて指導歯科医の指導のもと対応する。
必要症例数：５例以上

⑤　診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
研修内容：診療録、処方せん、歯科技工指示書、診療情報提供書等の診療に関する記録および文書を適切に作成する。
必要症例数：５例以上

⑥　医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
研修内容：医療安全の院内講習会を受講し、医療事故予防に関する基本的対策について理解し実践する。
必要症例数：１例以上

⑦　インシデント、ヒヤリ・ハット事例等を経験したら、報告書等を作成するとともに、その発生要因を分析することにより、必要な対策について理解し、実践する。
研修内容：医療安全の院内講習会を受講し、インシデント・ヒヤリハット事例の報告および発生要因分析について理解する。
必要症例数：１例以上

（３）　患者管理

①　歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
研修内容：全身的疾患、服用薬剤等について把握し、患者への説明およびカンファレンス発表を行う。

必要症例数：５例以上

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
研修内容：診療情報提供書等を用いて、主治医等との診療情報共有を実践する。
必要症例数：３例以上

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
研修内容：全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中のバイタルサインモニタリングを実践する。
必要症例数：５例以上

④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
研修内容：歯科診療時に発生しうる併発症および偶発症への基本的対応法について理解し、実践する。
必要症例数：３例以上

⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
研修内容：入院患者に対する術前・術後管理および療養上の管理を指導歯科医と連携して実践する。
必要症例数：５例以上

（４）　患者の状態に応じた歯科医療の提供

① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
研修内容：各ライフステージに応じた歯科疾患の予防管理および口腔機能管理を理解し、実践する。
必要症例数：５例以上

② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
研修内容：各ライフステージおよび全身状態に配慮した歯科医療を実践する。
必要症例数：５例以上

③ 障害を有する患者への対応を実践する。
研修内容：障害を有する患者に対する基本的な歯科対応を実践する。
必要症例数：３例以上

2.　歯科医療に関連する連携と制度の理解等

宇治武田病院　歯科医師臨床研修医　カリキュラム

（1）　歯科専門職の連携

① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
研修内容：歯科衛生士と連携し、予防処置および口腔衛生管理を実践する。
必要症例数：３例以上

② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
研修内容：歯科技工指示書を作成し、歯科技工士との連携を実践する。
必要症例数：３例以上

③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。
研修内容：多職種チーム医療に参加し、歯科専門職の役割について理解する。
必要症例数：３例以上

（2）　多職種連携、地域医療

① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
研修内容：地域連携室によるセミナーを受講し、地域包括ケアシステムについて理解する。
必要症例数：１症例以上

② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
研修内容：地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割について理解し、説明する。
必要症例数：１症例以上

③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
研修内容：在宅療養患者および介護施設入所者に対する多職種チーム医療に参加する（協力型（Ⅱ）臨床研修施設での研修を含む)。
必要症例数：３例以上

④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。
研修内容：訪問歯科診療に参加し、医療・介護関係職種との連携を実践する（協力型（Ⅱ）臨床研修施設での研修を含む)。
必要症例数：３例以上

⑤ 病院における歯科の役割を理解し、病院内の医科との連携を経験する。

研修内容：病院歯科の役割を理解し、病院内における医科歯科連携を経験する。
必要症例数：３例以上

⑥　がん患者等の周術期や回復期等の入院患者等の口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、他職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
研修内容：周術期および回復期患者に対する口腔機能管理を経験し、多職種チーム医療に参加する。
必要症例数：５例以上

⑦　歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、接触嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
研修内容：NST、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等の多職種チーム医療に参加し、関係者と連携する。
必要症例数：５例以上

⑧　入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
研修内容：地域連携室によるセミナーを必ず受講する。
必要症例数：１例以上

⑨　地域における病院歯科の役割を理解し、病院歯科と歯科診療所の連携（歯科医療機関間の連携）を経験する。
研修内容：地域連携室によるセミナーを受講し、病院歯科と地域歯科診療所との連携について理解する。
必要症例数：１例以上

（３）　地域保健

①　地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
研修内容：地域の保健・福祉機関および関係職種について理解し、説明する。
必要症例数：１例以上

②　保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
研修内容：保健所等における地域歯科保健活動について理解し、説明する。
必要症例数：１例以上

（４）　歯科医療提供に関連する制度の理解

①　医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組

みを理解し、説明する。
研修内容：医療法、歯科医師法等の医療関連法規および制度について理解し、説明する。
必要症例数：１例以上

② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
研修内容：医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
必要症例数：５例以上

③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
研修内容：介護保険制度の目的および仕組みについて理解し、説明する。
必要症例数：１例以上

症例数
歯科医師臨床研修の到達目標を達成するために研修歯科医１人当たりに必要な症例数（必要症例数）【合計１８０症例】
研修期間中に経験することを目標とする研修歯科医１人当たりの症例数（目標症例数）【合計２５０症例】

4. 指導体制

原則として指導歯科医の直接の指導を中心とする。研修事項によっては院内適任者の協力指導を求めるが、プログラム責任者が統括する。また、必要に応じて医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師、リハビリテーション職種等の多職種が指導に関与し、チーム医療の観点から研修を支援する。研修の進捗状況については定期的に評価およびフィードバックを行い、研修歯科医の到達度に応じた指導を実施する。